

延命十句観音経

観世音 念法僧縁 念念従心起

南無仏 常楽我浄 念念不離心

与仏有因 与仏有縁 朝念観世音 暮念観世音

延命十句観音経 意訳

観音さま

どうか人の世の苦しみを救い下さい
人の苦しみをすくおうとなさる
そのころこそ仏さまのみころであり
私たちのよりどころです
この仏さまのころが
私たちの持つて生まれた本心であり
さまざまな縁にめぐまれて
このころに気がつくことができます

仏さまと 仏さまの教えと
教えを共に学ぶ仲間とによって
わたしたちはいつの世にあっても
変わることはない思いやりのころを知り
苦しみ多い中であって
人の為に尽くす楽しみを知り
この慈悲のころを持つて生きることが
本当の自分であり
汚れ多き世の中で
清らかな道であると知りました
朝に観音さまを念じ
夕べに観音さまを念じ
一念一念 何をするにつけても
この思いやりのころから行い
一念一念 何をするにつけても
観音さまのころから離れません

延命十句観音和讃

大慈大悲の 観世音

生きとし生ける ものみな
苦しき悩み ことごとく
すくいたまえと いのるなり
苦しみのぞき もろともに
しあわせいのる ころこそ
われらまことの ころにて
いのちあるもの みなすべて
うまれながらに そなえたり
ほとけの慈悲の 中にて
むさぼりいかり おろかにも
ほとけのころ 見失い
さまようことぞ あわれなる
われら今ここ みほとけの
みおしえにあう さいわいぞ
おしえを学ぶ 仲間こそ
この世を生きる たからなり
われを忘れて ひとのため
まごころこめて つくすこそ
つねに変わらぬ たのしみぞ
まことのおのれに 目覚めては
清きいのちを 生きるなり
朝に夕べに 観音の
みころいつも 念ずなり
一念一念 なにしても
まごころよりは おこすなり
一念一念 観音の
慈悲のころを 離れざり